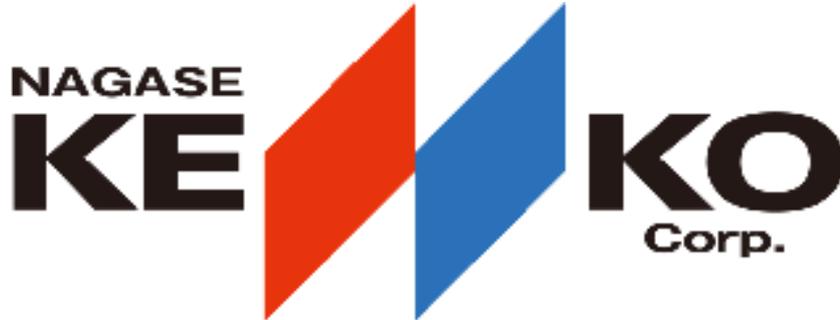


第5回ナガセケンコー杯

スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選



公益財団法人
日本少年野球連盟

スポニチ

期間 令和7年2月8日(土)15日(土)16日(日)22日(土)23日(日)予備

会場 草薙球場/春野球場/渚園球場/富士ボーイズ専用球場

主催 (公財)日本少年野球連盟 静岡県支部
(公財)日本少年野球連盟

協賛 ナガセケンコー株式会社



撮影とSNS投稿の注意事項

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影されます際には、被写体となる方の肖像権にご配慮頂き、個人が特定されるような方法で撮影されないようにお願いします。また、試合内容をSNSなどで公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーにご配慮いただき、これらの無断公表とならないようにお願いします。



⚠️ ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています。



Japan Boys Baseball

野球をしながら
団結・友愛・規律・勇気・忍耐
身につけよう

(公財)日本少年野球連盟定義 第3条

本財団は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の鍛錬とスポーツマンシップを理解させることに努め、規律を重んじる明朗な社会人としての基礎を養成し、もって次代を担う少年の健全育成を図ることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟

会長 惣田 敏和

本部 大阪市浪速区日本橋西1丁目3番19号

南海日本橋ビル2F

TEL. 06-6649-0061

第5回 ナガセケンコー杯 静岡県支部春季大会役員名簿

大会顧問	(公財)日本少年野球連盟	会長	惣田敏和
〃	(公財)日本少年野球連盟	特別相談役	堀内 健
〃	(公財)日本少年野球連盟	中日本ブロック長	松本行弘
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県担当理事	杉浦真一
大会名誉会長	ナガセケンコー株式会社	取締役会長	長瀬泰彦
大会会長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部支部長	山本浩士
大会運営委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	鈴木貴司
大会運営副委	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部行事委員長	山田 登
大会事務局長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部副支部長	富樫憲之
大会事務局	(公財)日本少年野球連盟	御殿場ボーイズ代表	芹澤輝充
大会広報委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部広報委員長	瀧澤佳孝
大会IT委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部IT委員長	粂山浩志
大会会計委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部会計委員長	宮本浩和
大会審判委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判委員長	森重明
大会審判長	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部審判長	高林俊光
大会審判員	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部	審判員諸氏
大会運営委員	(公財)日本少年野球連盟	静岡葵ボーイズ代表	芦澤厚史
〃	(公財)日本少年野球連盟	菊川ボーイズ代表	池田竜司
〃	(公財)日本少年野球連盟	浜松ボーイズ代表	梅谷保彦
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡府中ボーイズ代表	熊切大介
〃	(公財)日本少年野球連盟	浜松修学舎ボーイズ代表	倉島裕貴
〃	(公財)日本少年野球連盟	磐田ボーイズ代表	中村好寛
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	宮本 博之
〃	(公財)日本少年野球連盟	静岡県支部役員	進士佳典

第5回ナガセケンコー杯

スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟秋季全国大会静岡県支部予選

〈開会式〉

令和7年2月8日（土）10:30

草薙球場

来賓・役員・審判員整列

選手入場

国旗・連盟旗掲揚

開会宣言

大会会長挨拶

来賓挨拶

大会注意事項連絡

選手宣誓

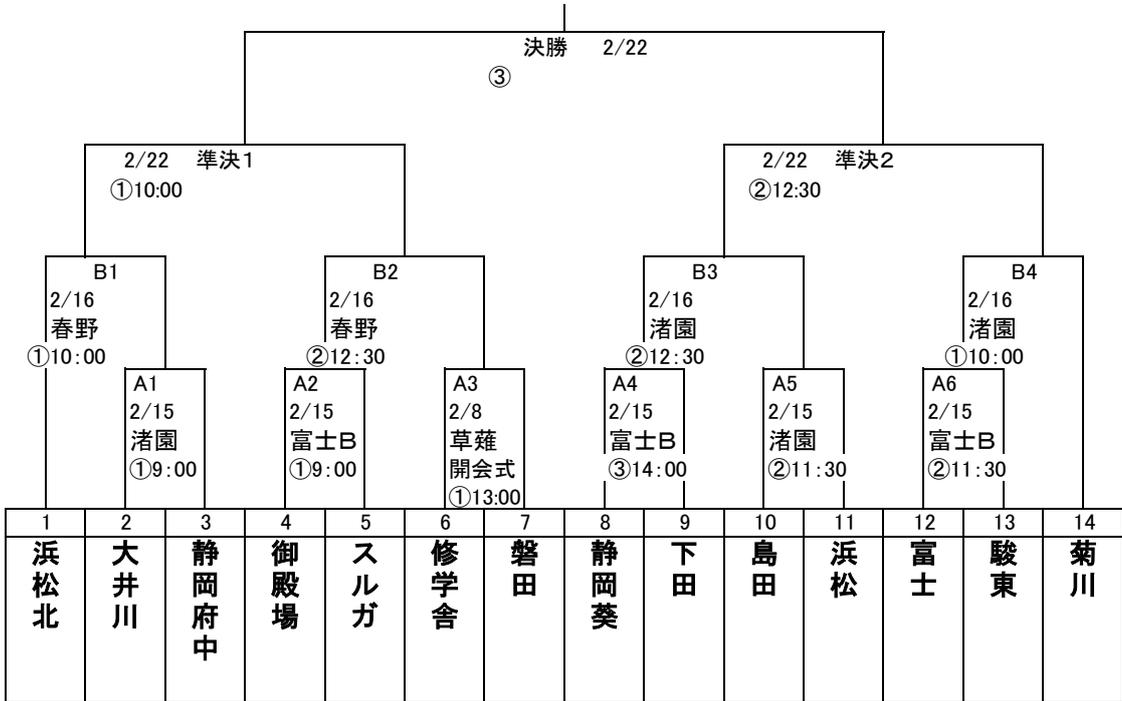
始球式

選手退場

来賓・役員・審判員退場

第5回ナガセケンコー杯スターゼンカップ第55回日本少年野球連盟春季全国大会静岡県支部予選

月	日	曜日	確保球場	開門	第1試合	第2試合	第3試合	第4試合	責任審判員	担当チーム
2	8	土	草薙球場	8:00	A3					静岡府中
2	15	土	富士B	8:00	A2	A6	A4			富士ボーイズ
2	15	土	渚園球場	8:00	A1	A5				浜松ボーイズ
2	16	日	春野球場	8:00	B1	B2				浜松北ボーイズ
2	16	日	渚園球場	8:00	B4	B3				菊川ボーイズ
2	22	土								
2	23	日								



大会規定

- 1・チームの登録選手は中学生の部は 11 名以上 25 名以内（ベンチ入りは 20 名以内）とする。また、小学生の部は 11 名以上 20 名以内とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在、連盟へ登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手 20 名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が 1 塁側のベンチ、後番号が 3 塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号 60)、コーチ(背番号 50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻 60 分前までに試合場に到着し、直ちにオーダー表を 5 部、投球回数記録副表 3 部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は 7 回戦で行い、4 回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から 2 時間（決勝戦は 2 時間 20 分）を超えた場合、新しいイニングには入らない（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する）。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則 7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4 回終了時（後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4 回終了時）10 点差、5 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 8 回(決勝戦は 10 回)あるいは試合開始から 2 時間(決勝戦は 2 時間 20 分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレイク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレイク実施細則」参照)

(2)4 回以降 7 点差の場合、コールドゲームとする。

(3)6 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 7 回（決勝戦は 9 回）あるいは試合開始から 1 時間 40 分（決勝戦は 2 時間）を超えては（どちらか早い方）新しいイニングに入らず、タイブレーク方法を実施する。

（競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）

11・(1) 中学生の部投手の投球数は、1 日最大 80 球以内とし、連続 2 日間で 120 球以内とする。

小学生の部投手の投球数は、1 日最大 65 球以内とし、連続 2 日間で 105 球以内とする。

(2) 打席の途中で制限数に到達した場合は、当該打者の打席が終了するまでは投球を認める。その時制限数を超えた投球数はカウントしない。

(3) ボークは投球数としない。ノーゲームになった試合も投球数にカウントする。申告敬遠までの当該打者への投球数はカウントする。その他、本大会は中日本ブロック HP 掲載の投球数制限ガイドラインに基づき行う。

(4) 日程の変更（地区大会を含む）等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛に提出しなければならない。

12・(1) 監督またはコーチの指示、伝達は 1 試合で攻撃 2 回と守備 2 回の計 4 回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。

（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。）

(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が 3 回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3) 内野手が 2 人以上投手のところに行った時も 1 回に数える。

(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30 秒以内」とする。

13・1 イニングで同一の投手に対して指示、伝達が 2 回目となれば、自動的に投手の交代となる。

その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするとき、マウンドのところで行うこと。（ベンチからは駆け足で）

16・2 塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合必ず両耳付きヘルメットを着用すること。

20・各チームは同色のヘルメット 7 個以上、捕手の規定防具（マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ）2 組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

21・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

22・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

23・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

25・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

26・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

27・守備側のチームの監督は球審に敬遠の意思を伝えると投手が投球することなく対戦打者を四球にすることができる（申告敬遠）。

参考

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうち又は表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点かたはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレイク実施細則》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて（いずれか早い方）、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて（いずれか早い方）両チームの得点が等しい時は以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる

(2) チームおよび個人の記録

チームおよび個人の記録は公式記録とするが、如何に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打・無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録とする。

【AED所持の確認】

- ・選手審査時にチームはAEDを所持していることを確認すること

ウイルス感染予防ガイドライン

1. 出場チームの遵守事項

(1)検 温

- ①開会式3日前～大会参加期間中はチームの参加者全員が検温を実施し体調管理をチームで行うこと
- ②参加者名簿は感染者等が出た場合等に提出できる体制をチームで確立すること
※名簿の提出は不要。大会中に感染拡大等により名簿の提出を求めることがある

(2)消毒・換気等

- ①チームで消毒液等を備え、食事前等に手指消毒を徹底すること
- ②バス及び自家用車等での移動や宿舍内は換気をこまめに行うこと
- ③マスク着用は義務付けないが、感染が疑われる場合等はチームとしてマスク着用について適宜判断すること

(3)発熱者等の発生時

- ①発熱者が出た場合は、発熱者を隔離、ウイルス検査等、医師の診察を受けること
- ②発熱者と宿舍での同室、接触が特に密な選手等は、マスク着用で他の選手・チーム関係者と接触を少なくし、大会に参加すること
- ③発熱者が陰性の場合は、上記②を解除できる

(4)チーム責任者について

- ①チーム責任者(基本は代表、または副代表等)は、感染対策をはじめチームの行動の全責任を負い、大会期間中は、連盟規約や各種決定事項の遵守を徹底すること
- ②大会期間中のチーム責任者の氏名及び連絡先を事前に連盟本部に報告すること

2. 大会・試合に関する遵守事項

(1)集合時

- ①試合に際し、チームは試合開始1時間前を目途に球場に到着すること
- ②本部等のチームの全体挨拶は行わず、チーム責任者が到着した旨を本部に伝える
- ③チーム責任者は到着時に、役員・選手登録名簿、オーダー表、直前大会・練習試合投球状況報告書(初日のみ)、2試合目以降は投手投球数記録表(正)1枚、(副)3枚を球場責任者に提出すること

(2)審査について

- ①球場責任者は、提出された役員・選手登録名簿、オーダー表と照合し、審査を開始する
- ②大会審査はチーム責任者立会の下、道具審査を行い、チーム責任者及び指導者等、選手は規定に基づき整列し、球場責任者等の役員が上記①で確認した役員・選手登録名簿により行う
- ③審査の際に選手は氏名・生年月日を発声し、資格証を審査者に見えるように提示する

3. その他

(1)球場スタンド・応援等

- ①スタンドにおいても、一定のソーシャルディスタンスを意識すること
- ②できるだけ、他チームの関係者と接触しないようにすること
- ③スタンド等観戦時に保護者等は、節度ある応援とすること
・鳴り物は使用しない。ナイスプレーは拍手で賞賛する。
メガホンは使用可(ただしメガホンを通しての声出しは禁止)(球場のマナーに従う事)
- ④試合終了後は、応援チームでスタンドの清掃を行うこと

(2)その他

- ①感染状況により、2類時のガイドラインに準ずる取り扱いとなる場合がある
- ②この場合は、連盟本部から改めて臨時のガイドラインを発する
- ③その他、大会期間中に疑義等があれば連盟本部に支部長を通じて照会すること 以上

投手投球数制限の運用細則

令和3年5月8日
(公財)日本少年野球連盟

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は〇点、投球数は〇球です。なお、△□投手の総投球数は〇球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚複写)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚複写)を引き継ぐこと。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

浜松修学舎ボーイズ

駿東ボーイズ

スルガボーイズ

浜松北ボーイズ

代表	倉島 裕貴	代表	鈴木 貴司	代表	靱山 浩志	代表	富樫 憲之
監督	宮澤 明聡	監督	松尾 良太	監督	工藤 隆	監督	山道 伸之
コーチ	辻岡 裕汰	コーチ	中川 清猛	コーチ	椎田 清隆	コーチ	絵鳩 隆雄
マネージャー	佐藤 二郎	マネージャー	岩崎 望	マネージャー	池谷 悟	マネージャー	渡邊 裕文
4	主将 山下 唯斗 2年	9	主将 山本 妃奈 2年	22	主将 吉野 瑛翔 2年	89	主将 絵鳩 大河 2年
2	田口 湊楽 1年	4	岩崎 晴空 2年	3	池谷 希夢 2年	0	秋山 寛翔 1年
3	松下 栄琉 1年	5	鈴木 佑 2年	4	渡邊 大地 2年	6	島村 琉聖 1年
5	藤田 奏 1年	6	長澤 幸希 1年	5	竹内 徠斗 2年	8	小笠原 大和 1年
6	渡辺 一伍 1年	13	福沢 悠 2年	6	八巻 行正 2年	12	藤田 彪真 2年
7	伊原 幸汰 2年	14	山口 剛虎 2年	8	横山 幸生 2年	15	中村 武琉 2年
8	金原 柚 1年	19	松見 新太 2年	17	古見 颯人 2年	19	西 秀虎 2年
10	手塚 勇虎 1年	20	土屋 恭平 2年	18	永沼 良太 2年	22	井口 琥太郎 2年
11	野末 樹 2年	21	大庭 都和 2年	19	青沼 剣吾 2年	23	伊藤 凌一 1年
12	白鷺 拓弥 1年	22	鈴木 陽楽 2年	20	松本 蒼太 1年	27	渡邊 健介 2年
17	近藤 晴輝 2年	23	難波 燈空 2年	25	房 睿 1年	30	高林 陽宜 2年
18	和田 脩吾 2年	24	永塚 陽向 2年	27	橋本 将希 2年	33	安川 凜音 2年
22	鈴木 嬉音 2年	25	米倉 真毅斗 2年	28	鈴木 大也 2年	37	加藤 佑來 2年
23	加藤 伶八 2年	33	菊間 壮佑 2年	35	北原 健志郎 1年	40	仲山 航生 2年
		42	堀内 鉄匠 1年	51	鈴木 司 2年	42	菅原 慶太 2年
		44	前田 遼斗 1年	54	関 緑里 1年	44	大柳 翼 1年
		45	岩崎 龍空 1年			47	由比藤 新 1年
		47	繁松 由空 1年			49	齋藤 倅次郎 1年
		51	伊山 莉叶 2年			70	鈴木 大駕 2年
		81	桃野 颯斗 2年			74	室内 蓮叶 2年
		99	大森 朝陽 1年			75	堀内 陽登 2年
						80	乗松 聖羅 1年
						81	内藤 志音 2年
						86	長谷川 翔大 2年
						88	絹村 遼 2年

下田ボーイズ

静岡葵ボーイズ

静岡府中ボーイズ

大井川ボーイズ

代表	宮本 浩和	
監督	渡邊 夏樹	
コーチ	臼井 悠介	
マネージャー		
6	主将 鈴木 夢人	2年
1	石井 世夏	2年
2	後藤 嵐	2年
3	阿部 蒼大	2年
4	後藤 虎太郎	2年
5	臼井 煌一郎	1年
7	太田 麦	1年
8	菊池 春来	2年
9	佐藤 煌華	2年
10	久住 晴道	2年
11	矢野 道	1年
12	木村 八起	1年
13	石坂 旭	1年
14	千島 陽菜斗	1年
15	堤 蓮王	2年
16	八代 煌月	2年
17	唐島田 泰	1年
18	唐島田 芽衣	1年
19	伊藤 春	2年
20	内山 遥仁	1年

代表	芦澤 厚史	
監督	池谷 謙太	
コーチ	佐野 文哉	
マネージャー	西ヶ谷 圭介	
6	主将 石垣 温暉	2年
2	濱田 慈仁	1年
4	遠津 悠斗	1年
5	曲田 和樹	1年
7	中川 太陽	2年
9	杉山 蓮祇	2年
10	佐藤 新	2年
12	山下 開世	1年
14	佐野 愛太	1年
18	佐野 光星	1年
19	青木 善	1年
21	原田 星亜	2年
22	宮地 優和	2年
23	佐藤 大真	1年
24	長利 怜皇	1年
26	杉本 麗悟	1年
34	佐藤 陸人	1年
41	西ヶ谷 莉園	1年
47	宮部 明日斗	1年
51	川口結衣	1年
55	倉永 夏希	2年
83	有賀 夢生	2年

代表	熊切 大介	
監督	望月 淳	
コーチ	松永 康裕	
マネージャー	大畑 真也	
6	主将 法月 暖真	2年
2	山際 敦仁	2年
3	森 啓人	1年
4	曾根 空柁	2年
5	寺田 遥斗	2年
7	森下 寛大	1年
9	渡邊 大和	2年
10	青木 佑陽	2年
11	蓬生 晴人	2年
12	堀江 悠斗	2年
13	里見 颯祐	1年
14	板倉 悠晟	1年
15	飯塚 陽翔	1年
16	富永 太市	2年
17	増田 愛海	2年
18	佐藤 蒼真	2年
19	府川 真大	1年
20	鈴木 瑛人	2年
21	澁谷 灯歩	2年
22	小長井 優誠	2年

代表	森重 明	
監督	袴田 晋矢	
コーチ	笹山 大輔	
マネージャー	伊藤 謙佑	
2	主将 青野 晁大	2年
0	高田 颯	1年
1	大倉 一紗	2年
4	菊地 流星	2年
5	伏見 航星	2年
7	滝浪 茉奈	2年
9	大 井健翔	1年
19	中山 颯	2年
21	望月 康太郎	2年
22	園田 彪馬	1年
23	岡村 遥真	1年
27	内田 周汰	2年
34	杉浦 拓実	2年
35	鈴木 梁太	2年
38	北川 雅	2年
41	竹下 想生	2年
55	岸端 一樹	2年
59	曾根 希海	1年
66	太向 響	2年
99	三浦 香穂	1年

磐田ボーイズ

代表	中村 好寛
監督	吉村 正之
コーチ	中山 泰成
マネージャー	齋藤 隆太
10	主将 村松 蓮介 2年
2	長谷川 侑世 2年
3	戸塚 陵太 2年
8	山口 瑛大 2年
9	密岡 大隼 2年
11	伊藤 千里 2年
17	廣岡 叶翔 2年
19	高橋 祐翔 1年
21	久保 智 2年
24	安間 蓮輔 1年
30	杉本 優大 1年
38	井熊 泰久 2年
39	大石 徠翔 1年
45	竹下 綾也 1年
51	萩原 煌馬 2年
52	大原 侑馬 1年
55	西尾 颯馬 1年
56	小倉 陽虎 2年

菊川ボーイズ

代表	池田 竜司
監督	鈴木 修平
コーチ	後藤 英希
マネージャー	横山 春満
72	主将 竹内 蓮 2年
20	島内 喜成 2年
22	植村 大誠 2年
30	牧野 蒼太 2年
34	山崎 亓新 2年
36	柳澤 蒼介 2年
38	磯部 勇斗 2年
39	加藤 蒼稀 2年
41	松井 倅晟 2年
42	木ノ戸 望煌 2年
43	松井 稜芽 2年
45	阿野 斗哉 2年
46	山下 雄大 2年
49	荒木 湘吏 2年
52	藤田 莉生 2年
53	曾根 勇斗 2年
56	海福 大和 2年
61	紅林 耀斗 2年
62	天野 豊 2年
65	横山 唯月 2年
66	山崎 愛斗 2年
67	渡辺 晴大 2年
74	齋藤 遥大 2年
77	和田 奏亮 2年
78	内山 斗夢 2年

富士ボーイズ

代表	瀧澤 佳孝
監督	瀧澤 将美
コーチ	栗田 靖之
マネージャー	深瀬 一樹
29	主将 渡邊 優 2年
2	吉田 隼梧 1年
3	湖山 知承 1年
4	栗田 和城 2年
6	因石 隼士 1年
9	芦澤 隆太 2年
21	仁藤 理徠 1年
23	仁藤 蒼良 1年
25	矢野 雄晴 1年
33	岩見 紘之進 1年
51	勝又 諒 1年

御殿場ボーイズ

代表	芹沢 輝充
監督	松田 碧海
コーチ	横手 幸太郎
マネージャー	松田 幸夫
2	主将 勝俣 拓真 2年
1	山下 晋太郎 2年
3	杉山 琉晟 2年
4	宮崎 遥也 1年
5	湯山 聡士 2年
6	貞廣 航汰 2年
7	植田 友惺 2年
8	坂口 太絆 2年
9	小野 賢人 1年
10	金子 颯汰 2年
11	岩本 颯太 1年

島田ボーイズ

代表	山田 登
監督	鈴木 亨
コーチ	飛弾野 清治
マネージャー	奥津 和長
10	主将 鈴木 瑛介 2年
4	鈴木 琉斗 2年
12	高橋 玲 2年
16	増田 慧太郎 2年
19	上田 淳吾 2年
20	成岡 来翔 2年
24	宮城 吏玖 2年
26	辻村 聡太 2年
27	萩原 颯士 2年
33	坂田 吟次 2年
34	高橋 凌 2年
35	澤口 修次 2年
36	大川 銀士 2年
37	浅原 要 2年
38	横山 紘 2年
39	中原 琥優 2年
44	加藤 旭陽 2年
52	二木 愛侑斗 2年
56	辻村 悠汰 2年
61	大石 楓士 2年
62	藤本 翔太郎 2年
66	宮城 富士 2年
77	袴田 幸次郎 2年
82	加藤 夢都 2年

浜松ボーイズ

代表	梅谷 保彦
監督	60 中村 永司
コーチ	50 秋山 佳史朗
マネージャー	畑中 紳吾
5	主将 河合 暉 2年
0	澁谷 旺祐 2年
1	長倉 壮太 2年
2	安間 優輝 2年
3	白木 恭平 2年
4	伊藤 優臣 2年
6	中尾 紫音 2年
7	中村 悠人 2年
8	尾崎 瑠偉 2年
9	藤田 晃輝 2年
10	佐伯 虎志朗 2年
11	杉田 昊輝 2年
12	鎌田 翔介 2年
13	鈴木 哉多 2年
14	久米 煌河 1年
15	袴田 鳳雅 2年
16	梅谷 大翔 2年
17	伊藤 愛琉 2年
18	奥田 大翔 2年
19	藤原 慶太 2年
20	仲秋 蓮輝 1年
21	小林 大士 1年
22	野田 心一 1年
23	彦坂 琉羽 1年
24	竹下 瑛人 1年

大会観戦時の注意事項

【撮影とSNS投稿に関して】

当連盟所属チームの選手・関係者を撮影されます際には、被写体となる方の肖像権にご配慮頂き、個人が特定されるような方法で撮影されないようにお願いします。また、撮影は手持ち撮影のみとし、**三脚の使用や球場設置物へのカメラの固定は禁止**いたします。

試合内容を SNS などで公表される際には、選手・関係者の肖像権及びプライバシーにご配慮いただき、これらの**無断公表とまらないよう**にお願いします。

【応援に関して】

球場利用上のルールにより、声、拍手以外の**鳴り物の使用は禁止**いたします。